

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田 壽夫

日時：2017(平成 29)年 3 月 9 日(木) 9:30～15:30

気象：天候=晴時々曇り・微風、昼の気温=5℃程度

作業エリア：45 林班ろ-04(=谷間)

作業内容：林床整備(伐倒放置木の整理、枝打ち、作業道整備、生物確認)

活動参加者：石原順子 斧田一陽 倉谷邦雄 後藤和子 武田壽夫

計 5 名

<今日は振替作業日>

3 月第一木曜は午前の降水確率 80%の予報があり、取り止めとされたのだが、フタを開けると朝からの晴天で気象庁には裏切られた？。この時期の予報ハズレは珍しい。そこで一週間繰り延ばしての作業である。寒波の戻りで気温は低く、強い風も予想される中、JR 高槻には 5 名が集合。

<今日の作業>

前回(2/19)同様、作業地は「45 林班ろ-04」。谷の最上部に近く標高は 400m。ヒノキの植林にスギが少々、尾根近くは常緑の自然林が麓方向に伸びる。引き続き林床整備として地面に散ばる枯枝の整理と伐採後放置木の玉切り・積み直し、枝打ちと整備地域の標高を上げていくことにする。併せて、前回「宿題」にした生物の卵囊(ツノリ)の確認。

<傾斜地だが「乾いた足下」で多少は作業が楽>

足下が湿っていた前回と違い、地面が乾いている分「ズルズル」滑る懸念は薄らぐ。ただ、上下左右の移動には足の運びと手足の置き所に注意が欠かせぬことに変わりはない。何と言っても鋸とチェーンソーを使っただけの作業が中心である。常に「脚下照顧」でご用心々々々。

また、4 m に伸ばした高枝切り鋸を使っただけの枝打ちも、これは重い鋸を両手で持ち上げ引き切るので身体のバランスも難しい。足場は勿論、樹上方向も要注意と言うことで疲れは「三次元」でかかってくる。そこで枝切りのプロには午前で切り上げ、午後は林床整備に廻って頂く。

(枝打ちは試しに 4 本爪軽アゼンを使用、効果はマズマズとのこと)

アレコレといろんな気遣いをしながらも、チェーンソーの活躍で午前・午後、合わせて長さ 50m×幅 30m(=0.15ha)のエリアを整備出来た。

さて、宿題の溪流の「卵囊」は？。昼食後谷底に降りてみたが、秦さんが目印に枝に巻かれた白テープの辺りでは残念ながら幼生の確認は出来なかった。孵化して泳ぎ去ったのかも知れない。もっとも、本山寺の住職の話では猪が食べることもあるそうで、そうなければ良いが。

近くの溪床には猪の新しい「菟場(ぬたば)」があった。

<一日を振り返って>

気持ち良い一日だったが、帰りの登りは身体が冷える。重ね着して足を進める。小屋に着くと谷では無かった風が結構強く吹抜ける。これには閉口。「45 林班ろ-04」の林床整備にはまだ 2 作業日はかかりそうで、緑が戻る春が待ち遠しい。

なお、朝、作業地への移動途中で道を塞ぐ倒木1本を処理、また、2m程の枯枝が道に垂直に突き刺さっているのに会う。その場に遭遇すれば思わぬ怪我になりかねない。要注意である。

(本文-以上)



朝の元気な顔



林床整備前-残置木を玉切りし斜面沿いに整理する



整備後-斜面の残置木は玉切りし等高線沿いに棚積み



谷の最深部付近：整備前



整備後の最深部斜面



枝打ち-長薙刀を持ち上げての作業



薙刀使いは軽アゼンで足下を固める



道に落ち刺さっていた枯枝
長さ 2m、径 2cm、人の頭で無く幸い



道を塞ぐ倒木の除去



斜面に整理



「幼生」の搜索



蒐場(ぬたば)